

2020年11月21日
北近畿経済新聞(3面)に掲載されました



30 反省することと
クヨクヨすることと
取り違えない

雑念を切ろう

人間の頭は考えてもしようがないことについては、考えれば考えるほど悪くなり、考えなければならぬことについては、考えれば考えるほどよくなる。これは、大脳生理学により創造工学を提唱された中山正和さんが著書の中でおっしゃっていた言葉です。

雑念や妄想というものは、この考えてもしようがないことが頭に浮かぶことをいうのです。創造のためには余計な雑念を取り除き、ひらめきが生まれる道をつくらないといけません。

たとえば、何か仕事で失敗したとき、ほとんどの人は「あ、部長が怒るだろうな。どうしよう」などと考える。これが雑念です。なるほど、それは怒られるかもしれないが、これは考えても仕方がないことで、考えなければならぬのは失敗の善後策です。なぜこんなことになったのか、原因と思われるものを思い浮かべることが起こらないようセーフティネットを張ることです。

またフリートリーキングなどで発言した後、「もう少し言葉を添えたほうがよかったかもしれない……」などとクヨクヨする人が多いようです。これは頭の働きの悪くなり、ひらめきなど湧くはずがありません。反省とクヨクヨすることは違います。言葉が足りなかったと思うなら、補足説明の場を求めるようにしています。

とくに新しい製品開発や市場開発を考えるときには、うま〜い〜だから、うま〜い〜いかなかったらどうしようかと不安がつきまわります。これも雑念の部類です。それよりも打つべき手に落ち度はないかを再考することです。

※「人生の「ねじ」を巻く77の教え」より転載



人生の「ねじ」を巻く77の教え

著者 日東精工株式会社 企画室
発行所 株式会社ポプラ社
1,000円税別(770円)販売中